

顎位診断器の作製仕様書

1. 咬合器を用意します

咬合器は、手持ちのものでスプリットキャスト法のできるもの、また、インサイザルピンでセントリックストップの固定ができるものならば何でもかまいません。

もし、新しく咬合器を購入されるなら、塩田製フラミンゴD (6600円)【販売はタスク0120-418-957】が使いやすいと思います。

2. 咬合器の上下フレームに固定するマウントテーブルを用意します

マウントテーブルとは、義歯の内面に盛った「かみねんど」を、咬合器に固定するためのものです。テーブルが網目状になっていることが望ましく、この網目の間に粘土が入り込んで外れないことが大切です。

テーブルとして既製品を利用する場合は、日曜大工用品コーナーで一般に発売されている「プラ木レン」(写真参照)の

OA型 31-40mm を2個(各400円弱)用意します

3. プラ木レンのテーブルを木型から外し(写真下)、テーブルを咬合器の上下フレームにスプリットキャスト法によって固定します

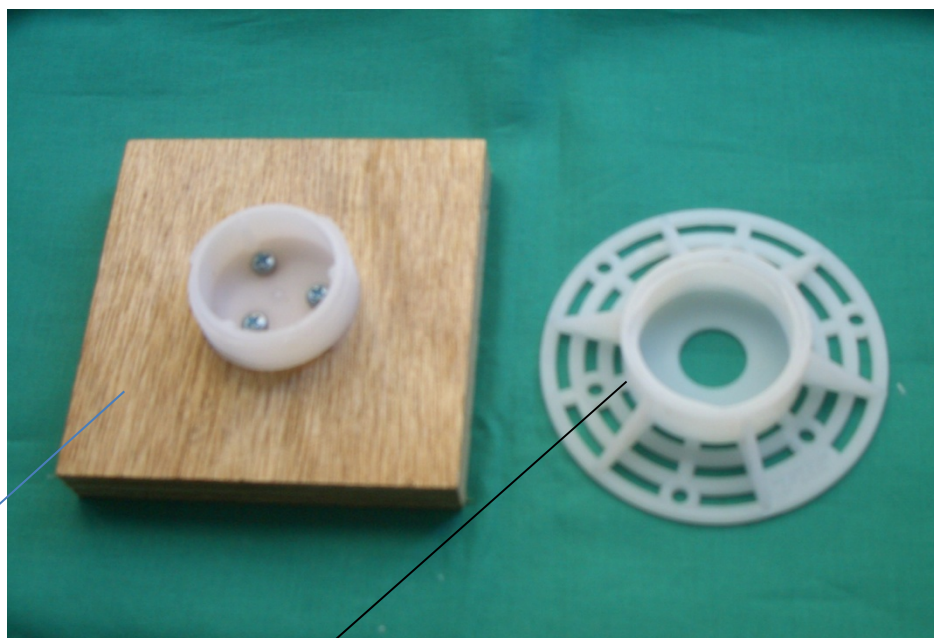
4. 固定の仕方は、咬合器のメタルプレートにマグネットを固定し、この上にテーブルをかぶせます

テーブルの中央には、17mmの穴が開いていますので、ここから硬石膏を注ぐか、オストロンのような室温重合レジンで、テーブルとメタルプレートを固定します。

5. 固定材が固まったら、テーブルを咬合器から外して、フレームとテーブルの間にはみ出したバリを修正して完成させます

以上のように作製しますが、用品の入手などで困難な場合はご相談下さい。

市販されているプラホレン OA型 31-40ミリ



こちらは使用しません

はずして、このテーブルのみを利用します